



fure-fure



ただ今ボランティア中！



U.K.
Faculty of Nursing
University of Kochi



高知県立大学 看護学部
Faculty of Nursing University of Kochi



情報センター長(図書館長) 山田 覚



ご存じのことと思いますが、高知県立大学は、平成27年度から高知工科大学と法人統合し、名前は変わりませんが、新しい高知県公立大学法人としてスタートします。法人統合に伴い、永国寺キャンパスでは現在新校舎の建設が進んでいます。平成28年度には新しい図書館も完成し、この図書館は、当初の計画より小振りにはなりますが、改革の良いチャンスと捉え、ラーニングcommonsやアクティブラーニングを意識した図書館づくりを議論してきました。ラーニングcommonsの日本語訳は幾つかありますが、例えば学びのための共有の場、とでも訳せるでしょうか。静かに、重厚な専門書を一人で読む環境から、一人ではなく複数で学びのための場を共有するイメージは、それまでの図書館とはかなり異なると思います。一般的に図書館ではおしゃべり禁止ですが、ラーニングcommonsには、議論する場を創ります。そこには、自由にレイアウトを変えられる机と椅子、そして座ったまま記入できる移動式の低いホワイトボードを用意します。互いの意見をぶつけ合い、その議論を通して新たな意見を創造しようというものです。また、学業のことばかりではなく、大学生として、公私にわたる話題をお茶を飲みながら語り合える場も創ります。高知県立大学は、「学ぶ」ことに関して、このような改革を続けてまいります。

看護学部学生部長 森下 安子

最近、看護学部等池キャンパスの学生さんたちからの交通事故報告が数多くあがってきています。事故の内容をみると、バイクや自動車と学生さんの自転車が接触、転倒し「被害者」となったという報告のみならず、大学近辺で歩行している住民の方に学生の自転車が接触し、相手の方が転倒し、学生が「加害者」になったという報告もあります。大学では、毎年定期的に交通安全講習会を開催しています。写真は、平成26年6月16日、20日に高知東警察署の方を講師に招き開催しました「自転車交通安全講習会」の様子です。この講習会には看護学部のほぼ全学生が参加し、特に自転車の交通ルールやマナー、自転車交通事故の現状などを学びました。6月末には職員が通学路に立って、無灯火や並列自転車走行への指導を行うなど、学生に注意を喚起する取り組みも行いました。看護学部での過去の事故事例を見ると、実習中や1時間目の授業がある時など、交通量も多く、さらに時間に余裕がない時に多く発生しています。看護学部では、事故が多い時期や、事故が発生する度に、実習担当教員や学年担当より注意喚起の声かけやメールを送るなど取り組みを行っていますが、ぜひ保護者の皆様からも注意するよう、お声かけいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。





1 回生



4月に大学生となり、3か月が経ちました。1回生は90分授業にも慣れ、講義の空時間や放課後にはシート交換の技術練習などの自己学習にも積極的に取り組んでいます。また、サークル活動やボランティア、アルバイトにも取り組みはじめ、授業と両立を図るようスケジュール管理に努めています。写真は4月19日のバスハイクの様子です。バスハイクは毎年、2回生が企画を行い、1回生と2回生、教員との交流を図っています。今回、いの町にある『土佐和紙工芸村くらうど』に行き、手漉き和紙体験に挑戦しました。ほとんどの学生が初めての体験でしたが、指導していただきながら自作のはがきを作成しました。移動のバスの中では自己紹介やクイズなどを行い、交流を深め、午後は大学の体育館でバレーボール大会を行い、各グループが一つとなり白熱したゲームとなりました。この1日を通じて1回生のクラスメイト、そして2回生の先輩、教員との交流を深めました。

2 回生



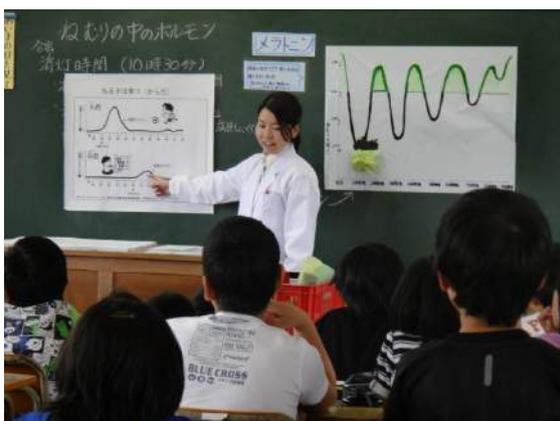
2回生となり、診断や治療についての講義や医療的ケアについての講義・演習が多くなってきました。写真は、輸液管理の技術演習の風景です。安全に点滴や注射を行うにはどうすればよいのか、点滴中の患者さんが少しでも過ごしやすいように看護師として何ができるのかなど、グループで話し合ったりしています。学生たちは、講義、演習に向けDVDを視聴しての事前学習、演習後の復習を熱心に行っています。そのような忙しい合間を縫って、ボランティアやアルバイトも積極的に行っており、勉強と余暇活動を上手く両立させています。8月18日から、病棟で初めて受け持ち患者さんを担当し看護を展開する看護基盤実習が始まります。不安と緊張を抱えながらも、前向きに取り組む2回生をぜひ応援してください。

3 回生



6月7日、3回生を対象に「保健医療系就職ガイダンス」を開催しました。この会は、学生が、将来の進路について具体的に考えられるように支援する企画の1つです。看護師、保健師、助産師、養護教諭として働いている卒業生から、職種選択の理由や就職活動の実際、仕事に対するやりがいを実感するエピソードなどを聞かせていただきました。その他、病院の教育担当者から新人看護師に求められる能力と学生時代に身につけてほしいことについて、中野学部長からは本学が行っている高知県の看護職のキャリア支援の現状、専門看護師の資格をもつ庄司先生からはキャリアアップを目指した経緯や臨床経験のお話をうかがいました。学生からは「身近な先輩から話を聞き、進路を考えるうえで参考になった」「就職活動についてイメージできるようになった」などの感想が寄せられました。

4 回生



いよいよ大学生最終年度が始まりました。4回生の1年間は、今まで学んできたことを統合させて、ひとりひとりが自分なりの看護を創造していきます。看護研究に取り組むことで新たな看護を探求し、実習においては主体的に興味ある看護実践を深めていきます。また、自分の力を精一杯発揮して就職活動を行い、国家試験に挑戦します。6月2日から養護教諭・助産師を目指す学生はそれぞれ選択した実習に取り組んでいます。また、6月23日から全員が総合看護実習・家族実習に取り組んでいます。総合看護実習は実習領域を選択することができます。就職や将来のキャリアディベロップメントを考えること、これまでの自分を振り返って残された課題を解決すること、関心ある領域の専門的知識・技術を深めることなど選択理由は様々です。学生は、これまでの講義や実習等の学びを活かしながら、そして新たに「家族」に視点をひろげながら、主体的に実習に取り組み自らの看護実践を深めています。



■ 教育の工夫

ここでは、看護学部で取り組んでいる就職活動の支援について紹介します。



看護学部では、就職相談コーナー『ワクワクWork!!』や学生委員会と連携して、1回生から学年に応じた様々な就職支援を行っています。3回生から、就職支援を強化し、卒業生のお話を聞き、将来の進路について考えるための就職ガイダンスを5月から3回、計画的に行っています。冬季休暇前には、高知県の看護職を支える仕組み、就職活動の留意点を説明しています。ぜひ、3回生の冬休み頃に、ご家族で就職を地元にするか、別の地域にするのか、一緒に話し合っていただければと思います。そして、3回生3月からは就職サポートが具体的かつ本格的になり、就職活動の過程やインターシップ参加のポイントについてのガイダンスがあります。4回生になると、学年担当教員による就職希望面談、履歴書や小論文の書き方、模擬面接など、学生個々の希望や意思を尊重した支援をしています。

近年、看護師不足により様々な就職斡旋業者を使った看護師確保の動きが見られます。学生の不安な気持ちにつけ込むような悪質な事例もありました。病院への就職を希望する本学の学生は、これまでほとんど第一希望への就職を得ています。学生が自分の夢を叶えるために、教員、職員一同で就職をサポートしています。ご家族の方もなにか心配なことがありましたら、いつでも教員にご相談ください。

■ 学生さんからのメッセージ



4回生は、今までの学んできた知識や経験を統合させながら、授業や看護研究、実習に向けての準備をし、自分の看護の専門性を高めています。また、国家試験の勉強や就職活動もスタートしており、将来の夢に向かって日々前進しています。助産コースでは6月から始まる実習に向けて日々分娩介助の技術や診断の練習を行い、産婦と児にとって安全で安楽な分娩体験となるよう技術や診断の質の向上に励んでいます。毎日が大変ですが、先生方のサポートを受けながら助産コース全員で切磋琢磨し、成長を感じられる日々を送っています。

4回生 羽根丘日向子

2回生が中心となって新入生歓迎のバスハイクを企画しました。実施したことは土佐和紙工芸村での紙漉き体験、1回生・2回生混成チームでのバレーボール大会です。紙漉き体験、仁淀川でのお昼ご飯など、自然に触れられる高知ならではの体験は県外からの学生、高知在住の学生にも高知を堪能できるよい体験になったのではないかと思います。より多くの人と交流を持てるよう、バレーボール大会では紙漉き体験とは違ったチーム編成でスポーツを楽しみました。普段はなかなか他学年と関わる機会がないため、このバスハイクは1回生、2回生と学年を超えたつながりを作る良い機会になったと思います。またそれだけでなく1回生同士の交流の場にもなったのではないのでしょうか。計画段階ではうまくいかないことも多々ありましたが、バスハイクを終え1回生、2回生のみならず先生方からも「楽しかった！ありがとう！」の声を頂けたことがとても嬉しく、やってよかったと思いました。このバスハイクでできたつながりを大事にして、これからの大学生活を謳歌して欲しいと思います。

2回生バスハイク委員



〔ニュースターの名前の意味〕 fure-fure 学生さんを応援する気持ちを含めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを含めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せください。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp